

《学校教育目標》 求め 鍛え 高め合う

【第2次東白川村教育ビジョン 方向と具体的方策】

～少人数時代に即した、東白川ならではの授業づくり～

- ・生徒一人一人の学力を確実に高める指導
- ・ふるさととのかかわりを大切にした、個別探究、課題解決型の指導
- ・学力定着を支える家庭・自主学習の充実

生徒の実態 (よさ:○ 課題:●)

- 仲間と共によりよい見方や考え方、表現を求めようとする事ができる。
- 学習規律を整え、課題に対して粘り強く取り組むことができる。
- 課題に対して、仲間と話し合っ深めたり、根拠を示しながら息の長い発言をしたりすることに弱さがある。
- 目的に応じて書く力が十分に身に付いていない。

願う生徒の姿

『多様な学びを通して、自らの考えを深めたり、思いを積極的に発信したりする姿』

東白川中学校には、「幼い頃から一緒に生活してきたからこそ、多くを語らずとも分かり合える」という支持的風土がある。反面、既成事実にとらわれ、仲間と立場の異なる意見を表出したり考えを練り合ったりすることに躊躇する姿もある。これからの現代社会をたくましく生き抜くためには、身近な事象の真理や真実を求め、その過程において自らの思考力を育み、仲間と関わる中で粘り強く追究したり、自分の思いや考えを深めたりして、より良い結論を導き出そうとする力が求められる。中学校卒業後、新しい環境で生活する生徒が、どんな場面でも自身の考えを表現豊かに表出する姿を強く願い、本研究の本質を求めていく。

研究主題

自分の考えを豊かに表出し、仲間と深め合う生徒の育成

研究仮説

少人数時代だからこそ生徒一人一人に手厚く指導できる利点を生かし、丁寧な実態分析を行いながらより個に焦点を当てた授業づくりを推進していくことで、一人一人の学習の基礎的・基本的知識・技能の定着を図ることができる。教科の授業において、東白川村との結びつきを意識した指導計画、教材開発を行い、村の地域文化・歴史・慣習を学ぶことが教科の学習とつながることで、生徒は知的好奇心や探究意欲をもって主体的に活動に取り組むことができる。さらに、付けたい力に応じて多様な形でタブレット端末を活用することで、基礎的・基本的な知識や、自身の考えや思いを深め、表現豊かに発信する力を身に付けることができる。

研究内容

研究内容(1) 個別探究、課題解決型の指導計画の工夫

- ・生徒一人一人が課題意識をもって取り組むことができる学習過程の工夫
- ・「ふるさと教育関連表」を生かした、ふるさとに関わった教材や資料の開発
- ・単元の特性や学習内容に応じたタブレット端末の活用

研究内容(2) 一人一人の学力の定着を図る個の実態把握と個に応じた手立ての工夫

- ・付けたい力に応じたレディネステストや学習の系統性を重視した実態把握とその分析
- ・「定着状況を見届ける」ことを意識した指導過程の工夫
- ・相手意識をもった「話すこと・書くこと」の言語活動の充実